

# 切片内ノ「スピロヘーテ、パルリダ」ノ染色法ニ就テ(第一回報告)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2297/37869">http://hdl.handle.net/2297/37869</a>

# 切片内ノ「スピロヘーテ、バルリダ」ノ染色法ニ就テ（第一回報告）

支那厦門醫院 池 上 豐

本編ハ余ガ前年臺北醫院ニ在勤中皮膚科研究室ニテ實驗セシモノニテ大正六年十二月臺灣醫學會例会ニソノ一部ヲ發表シ同時ニ標本ヲ供覽シタリ、其後研究ヲ重テ完全ナルモノニシテ報告スベキヲ欲セシモ或事情ノ爲メ一時中止シ居タリ、頃日再ビ本實驗ヲ繼續セントスルニ際シ過去ノモノヲ一纏トシ茲ニ第一回報告トシテ發表セントス、此ノ時ニ當リ諸家教示ヲ得テ次回報告ノ援助トナラバ幸甚ナリ。

## 一、緒 言

一九〇五年微毒病原體「スピロヘーテ、バルリダ」ノシヤウジン、ホフマン兩氏ニ依テ發見サレシ以來、ソノ形狀ヲ出來得ル限り明瞭ニ且ツ他ノ類似者トノ鑑別ヲ助ケンガ爲メ種々ナル染色法ハ考究セラレタリ、而シテソノ固定法及ビ染色法タルヤ從來知ラレタル微生體ヨリモ遙カニ工夫サレシナリ、以テ其檢索ノ容易ナラザルヲ知ルベキナリ。今此レヲ總括スルトキハ次ニ記載セル四種ノ方法トナスラ得ベシ。

一、懸滴標本ノ暗視野檢査。

二、塗抹標本ノ染色檢査。

三、組織染色標本ノ檢査。

四、切片標本ノ染色檢査。

然リ而シテ懸滴及ビ塗抹標本トシテノ檢査ハ比較的容易ニ且ツ確實ナル方法ナランモ、是レヲ以テソノ組織的變化ヲ知ラントスルハ不可能ナリ、故ニ微毒組織中ニ於テ「スピロヘーテ、バルリダ」ノ分布狀況ヲ明カニシ、進ンデソノ病原的價値ヲ定メンニハ必ズ組織染色標本ニ據ラザルベカラズ、即チ現今吾人が常用スルレバデチ氏法是レナリ。

然レドモ本法タルヤ染色ニ長時間ヲ費シ且ツ彈力纖維、神經纖維ノ染色強キヲ以テ同時ニ充分ナル組織變化ヲ觀察センニハ尙ホ物足ラザル感ナキ能ハズ、故ニアル組織ニ於テ一方ニソノ病理的變化ヲ、他方ニ「スピロヘーテ、バルリダ」ノ分布状態ヲ速カニ且ツ充分ニ究メントスルニハ、勢ヒソノ切片標本ヲ作り此ノ二ツノ目的ニ適スベキ各別々ノ染色法ヲ施スヲ以テ特策ナリトス。

余モ日常以上ノ如キ要求ヲ欲スル場合ニ屢々遭遇シ、ソノ都度切片標本内ノ「スピロヘーテ、バルリダ」ノ染色甚ダ困難ナルヲ知り且ツ吾人ト同感ノ諸氏又多カラント信ジ茲ニ本問題ニ向ツテ研究ヲ重ネタルナリ。

## 二、文獻ニ現ハレタル組織及ビ切片染色法

「スピロヘーテ、バルリダ」ノ發見以來、微毒組織内ニ此レヲ證明セントシ諸家ハ種々ナル染色法ヲ研究シソノ發表業績亦尠カラズ。

始メヘルクスハイマー及ビビュブネル兩氏ハ「ニルブラウ」色素ヲ以テ切片染色ニ成功シ、後ボルビノ氏ハ渡銀法ヲ應用シソノ目的ヲ達シ當時名聲ヲ博シタリ即チボルビノ氏第一法是レナリ、然レドモ切片染色ハソノ技術頗ル易カラザルヲ以テレバヂチ氏ハ種々研究ヲ重ネタル結果又組織染色ニ成功シソノ確實ナルヲ立證シタリ此レヲレバヂチ古法トス、同氏及ビマノネリアン氏ハ更ニ「ピリヂン」ヲ染色法ニ加フルトキハ一層良好ナルヲ發表セリ、此レヲ名ヅケテレバヂチ新法トス。

斯ノ如ク組織染色ハ確實ニシテ易キヲ知ルニ至リ擴ク應用サル、ニ從ヒ切片染色ハ全ク顧ミルモノナキニ至リ、前ニ第一法ヲ發表シテ耳目ヲ新ニシタルボルビノ氏モベルタレリ―氏ト共ニ組織染色ノ有力ナルヲ説キ彼レノ第一法ヲ改良シ新法トシテ組織染色法ヲ發表シタリ。

其他切片染色法トシテ發表セシモノヲ擧グレバハイデンハイイン及ビハイゼン氏ノ鐵ヘマトキシリン法、ギムザ氏ノ「アヅールエオジン」法、並ニシユモール氏ノギムザ染色法等アリ。

降テ一九一三年ギューネス及ビステルンベルグ兩氏ハ伯林醫事週報ニ切片内「スピロヘーテ、バルリダ」ノ迅速染色法ヲ發表シタリ。

其他諸家ハ種々ナル變法ヲ報告スレドモ現今吾人ノ常用スルレバチチ氏法ヨリ遙カニ簡單ニシテ奏効確實ナルモノアルヲ見ザルナリ。

### 三、余ノ實驗

前述ノ如ク余ハ微毒組織切片ニ就テ「スピロヘーテ、バルリダ」ノ分布状態ト並ビニソノ病理變化ヲ充分ニ知ラント欲セシ場合ニ屢々遭遇シタルガ故ニ、切片内ノ「スピロヘーテ、バルリダ」ノ染色ヲ從來發表サレシ諸家ノ方法ニヨリテ試ミ且ツ塗抹標本染色法及ビ組織染色法トシテ發表サレシモノヲモ應用シタリ。

勿論余ノ實驗ニ供セシ組織切片ハソノ内ニ無數ノ「スピロヘーテ、バルリダ」ヲ含有セル家兔辜皮微毒ナリ、然ルニ余ノ技術巧ナキカ尙ホ充分ナル實驗ノ足ラザリシ爲メカ、一ツトシテ完全ニレバチチ氏ノ組織染色法ニ於テ見ルガ如キ結果ヲ得ズシテ盡ク失敗ニ終レリ、彼ノギューネス及ビステルンベルグ兩氏ノ迅速染色法モ常ニ完全ニ染色シ得ルナランニハ確カニ良法トナスベキモ、多クノ操作ヲ要スルト暗室内ニ於テ幾多ノ熟練ヲ要スルヲ以テ決シテ簡單ナルモノト言フ克ハズ且ツ結果ノ不等ナルニ於テオヤ。

余ハ實驗中ニ於テ唯ボルビノ氏第一法ノ稍々見ルベキ結果ヲ得タルヲ以テ、同法ヲ適當ニ變更シ應用シタランニハ余ノ希望ヲ達スルナラントノ確信ヲ得タリ。

茲ニ於テボルビノ氏法ニ就テソノ染色液(硝酸銀)ノ濃度ノ關係、染色時間ノ關係、染色液ノ溫度ノ關係、光線ノ關係、此ノ四ツヲ考究シテ實驗ヲ重ネ約五、六ヶ月ニ數千枚ノ切片ニ於テ之ヲ試ミタリ。

ソノ結果次ニ記ス處ノ變法ヲ以テ最良トナスベキヲ信ジタリ。

一、「アルコール」中ノ切片標本ヲ充分水洗。

二、次ノ液ニ五—一〇分間貯フ。

「フォルマリン」

〇・八

二・八

氷醋酸

一・〇

蒸溜水

一〇〇・〇

蒸溜水

二・〇

三、水 洗。

四、〇・五%硝酸銀水ニ十二時間以上浸ス(孵卵器内ニ保有スルヲ良トス)。

五、水 洗。

六、次ノ液ニ約五分間(黄色ニナル迄)浸ス。

「タンニン」

三・〇

沒食子酸

五・〇

醋酸曹達

一〇・〇

蒸溜水

三三〇・〇

七、水 洗。

八、〇・二—〇・二%硝酸銀水ニ三—四時間貯フ、(帶褐色ニ至ル迄)〔硝酸銀ハ總テ光線ヲサクベシ〕。

然レドモ余ハ以上ノ記載セシ染色法ヲ以テ每常確實ニ何人ノ行ヒテモ「スピロヘーテ、バルリダ」ヲ證明シ得ルトハ斷言スルモノニアラズシテ、尙ホレバチ氏法ニ劣ル事數等ナルヲ信ジ彼我ノ差異ナキニ至ルニハ今後幾多ノ努力ト研究トヲ要スベキナリト考フル者ナリ。

### 供 覽 標 本

一、塗抹標本ニ於ケル「スピロヘーテ、バルリダ」(フォンタナ!氏法)。

二、組織染色標本ニ於ケル「スピロヘーテ、バルリダ」(レバチ氏法)。

三、切片標本ニ於ケル「スピロヘーテ、バルリダ」(以上記載ノ法)。

即チ三標本ニ鍍銀法ヲ施シテソノ憂劣ヲ比較シタリ。

稿ヲ終ルニ臨ミ臺北醫院皮膚科於保醫長ノ高教ヲ謝ス。